

地域包括ケア概念の展開と実践

—医療とのかかわりの観点から

後援：厚生労働省

会場 東京国際フォーラム ホールB5

日時 2014年9月9日(火) 13:30~17:00

入場無料

お申し込み方法は裏面をご覧ください

2025年、75歳以上が全人口の2割に達する超高齢化社会を、世界に先駆けて迎える日本。そんななか「地域包括ケア」が果たす役割とは？



TIME SCHEDULE

13:00	開場・受付開始	14:10	パネリスト講演 <各20分、発表順>
13:30	開会挨拶 ▶ 江利川毅 (医療科学研究所理事長)	▶ 迫井正深 (厚生労働省老健局老人保健課長)	▶ 川越正平 (医療法人財団千葉健愛会あおぞら診療所院長)
13:35	来賓挨拶 ▶ 原 勝則 (厚生労働省厚生労働審議官)	▶ 堀田聡子 (独立行政法人労働政策研究・研修機構人材育成部門研究員)	▶ 筒井孝子 (兵庫県立大学大学院経営研究科教授)
13:50	基調報告 ▶ 田中 滋 (慶應義塾大学名誉教授)	15:30	休憩
		15:45	パネルディスカッション
		16:45	座長まとめ
		16:55	閉会挨拶 ▶ 戸田健二 (医療科学研究所専務理事)

→ 開催趣旨

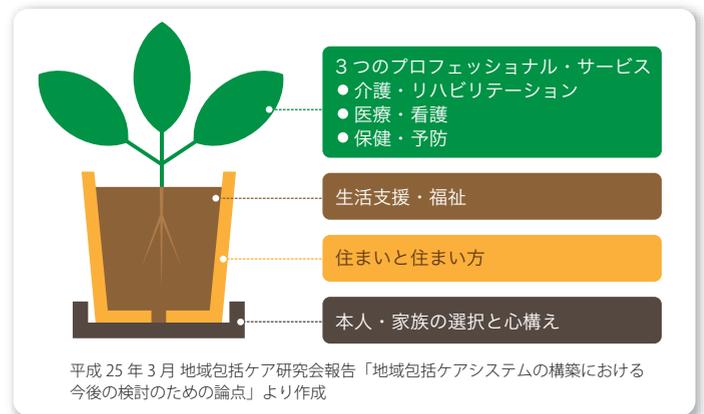
21世紀、人類は未曾有の高齢者数増に直面している。中でも日本は2025年に75歳以上が全人口の2割に達する超高齢社会を世界に先駆けて迎えることになる。こうした趨勢に対し、わが国は1989年のゴールドプラン以来介護提供体制の整備に努め、また2000年以降は公的介護保険によって介護サービスの利用を支援してきた。とはいえ、団塊の世代の75歳到達に備えるには、医療界・介護界のみならず、薬業界も自治体も、そして地域住民も危機感をもってもう一段進化した体制づくりを行わなければならない。

その構想は、日本のみならず、北欧・西欧・豪・加など高齢化先進国において「地域包括ケア」=Community Based Integrated Care System (Network) と呼ばれている。本シンポジウムに登壇する5名が加わった地域包括ケア研究会は、5年にわたってシステム設計の根幹を担ってきた。システムを分かりやすく描いた図が周知の植木鉢図である。「介護・リハビリテーション」「医療・看護」「保健・予防」の3つのプロフェッショナル・サービスを植物の葉、「生活支援・福祉」を植物が育つ土壌、「住まいと住まい方」を土が流れないようにしっかりと囲む植木鉢、そして「本人・家族の選択と心構え」を基盤となる皿として表し

た図に他ならない。また、個々の利用者のためのケアマネジメント・プロセスと、地域マネジメントの技法としての地域ケア会議も図に含めている。

医療科学研究所シンポジウム2014においては、こうした概念の展開を基礎に、現実に各地で進展しつつある体制構築の試みを示す。研究者のみならず、医療界・介護界・卸を含む薬業界・自治体の方々共に将来の地域づくりに貢献する会となるよう期待する。

座長 慶應義塾大学名誉教授 田中 滋



→ パネリスト発表テーマ ※発表順

迫井正深 「地域包括ケアシステム構築に向けた課題」

川越正平 「老いても病んでも暮らし続けることの出来るまちづくり～長期ケアにおける臨床的統合の観点から～」

堀田聡子 「地域包括ケアとまちづくり」

筒井孝子 「地域包括ケアシステムにおけるintegrated care理論の応用とマネジメント」

→ 開催日時・会場

開催日時

2014年9月9日(火) 13:30～17:00

開催会場

東京国際フォーラム ホールB5

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号
TEL:03-5221-9000

▶ JRご利用の場合
有楽町駅より徒歩1分
東京駅より徒歩5分

▶ 地下鉄をご利用の場合
有楽町線有楽町駅より
地下コンコースにて直結
丸ノ内線銀座駅より徒歩5分

お申し込み方法

ホームページ(右QRコード/下URL参照)から参加をお申し込みください。電子メールにて登録票を送付いたしますので、シンポジウム当日に受付にご提示ください。



ホームページ <http://www.iken.org/>

お申し込み締切 2014年8月31日(日)

※定員に達した場合は、お申し込みを終了させていただきますので、予めご了承ください。

※お申し込みいただいた個人情報は適切に管理し、登録票の発送と運営事務局からのご連絡以外の目的では使用いたしません。

会場MAP

